

脳卒中右片麻痺を呈した症例について

～移乗動作の介助軽減～

【発表者名】 三上彩夏

【所属】 介護老人保健施設おはよう館

【キーワード】 右片麻痺、移乗、重心移動

I.はじめに

本症例は脳卒中片麻痺を呈した 80 歳代後半の男性である。今回、理学療法評価を行い問題点の抽出と治療プログラムを作成し、治療を行わせていただく機会を得た為、以下に報告する。※ヘルシンキ宣言に則り同意を得た。

II.一般情報

【性別】 男性【年齢】 80 歳代後半

【身長】 160 cm【体重】 43.9 kg【BMI】 17.1

【HOPE】 早く家に帰りたい

【NEED】 排泄動作の獲得

III.医学的情報

【診断名】 脳梗塞右不全麻痺、不全失語、第 12 胸椎椎体骨折後偽関節術後【現病歴】 X 年脳梗塞発症し、内頸動脈形成術施行。X+12 年転倒、第 12 胸椎椎体骨折受傷。現在の状態では在宅困難な為、リハビリ継続を目的に当施設入所。

【既往歴】 認知症、糖尿病、高血圧

IV.社会的情報

【家族情報】 妻・長女(同居)、次女・三女(別居)

【家屋情報】 1 軒家 2 階建て、玄関にスロープ・昇降機、手すりはトイレ・廊下

【キーパーソン】 長女

V.初期評価〈身体機能〉

【BRS】 上肢Ⅱ 手指Ⅱ 下肢Ⅲ【感覚】 右半身中等度鈍麻【装具】 右下肢 SLB、コルセット装着【活動量】 一日、車椅子乗車し趣味のパズルをするか、ベッドに臥床し過ごしている。

【ROM】 両足関節背屈制限

【MMT】 非麻痺側 ※問題点のみ抽出。

股関節：屈曲 3、伸展 2、外転 3 膝関節：伸展 3、

足関節：底屈 3

【FBS】 15/56 点 【HDS-R】 17/30 点

〈動作能力〉

【移乗】 左上肢にて L 字柵把持、中等度介助

起立 円背・骨盤後傾位により重心が後方に残存。非麻痺側重心

立位 骨盤後傾位、両膝関節屈曲位、後方重心。非麻痺側重心

方向転換 ステップ時に麻痺側下肢緊張亢進、麻痺側下肢への荷重不十分

VI.問題点抽出

四肢・体幹筋力、麻痺側随意性低下による動作不安定性 # 骨盤後傾位 # 後方重心 # 立位姿勢 両膝関節屈曲位 # 麻痺側への荷重不十分 # 両足関節背屈制限

VII.ゴール設定

【短期目標】 四肢・体幹筋力増強、麻痺側随意性向上、動作時安定性向上

【長期目標】 軽介助での移乗動作獲得

VIII.治療プログラム

①起立・立位練習②重心移動練習③骨盤前後傾運動④移乗動作練習⑤関節可動域運動⑥筋力増強運動

IX.考察

本症例は脳梗塞右不全麻痺を呈した 80 代後半の男性である。退所後は車椅子での生活が想定された為、車椅子への移乗動作等が必要不可欠と考え、移乗動作に重点的に着目し介入した。

初期評価時に問題点として離床から立位時の後方重心を挙げた。後方重心の原因として骨盤後傾位・両足関節背屈制限が考えられる。これらの原因が安定した移乗動作獲得の阻害因子となっていたと考えた為、問題点に対し治療を実施した。その結果、長期目標に設定していた軽介助での移乗動作の獲得を早期に達成することができた。また、施設での生活においても離床の確保に繋がったと考える。